

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090100191
法人名	(株)かいせい
事業所名	グループホームかいせい
所在地	福岡県北九州市門司区錦町4番26号
自己評価作成日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成25年2月4日	評価結果確定日	平成25年3月22日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「地域の一員として」「異年齢交流」「ご近所づきあい」「楽しいこと、いろいろ」日々の暮らしが、生き生きと送れるよう、さまざまなレクリエーション企画や、ボランティアの導入などを常に心がけている。  
立地条件の良いところあるため、来館者が多い。いつでも誰でも訪ねてきて頂けるような環境を整えている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

門司港レトロ地区の周辺に位置し、近隣には協力医療機関やスーパーがあり、利便性の高い環境の中にある。建物1階は交流スペースとして活用され、町内会の会合場所としての活用や認知症啓発活動、学童クラブの子供達との交流等、地域の方々が訪れる機会も多い。また、公民館でのシルバー文化祭への参加を通じて地域の方との旧交を温めたり、近隣の幼稚園との継続した交流にも取り組んでいる。開設して2年が経過したばかりではあるが、地域とのつながりを大切に積み重ねてきたことが、一つずつ実を結んでいる。年2回の家族会への参加率も高く、終末期ケアや権利擁護制度等に関する意見交換をはじめ、別途実施される家族アンケートについても結果を開示する等、家族との関係づくりにおいても、積極的な取り組みが確認できる。『利用者への「こうありたい」を、地域の一員として実現できるよう、いろいろな機会を工夫します。』という理念のもと、地域密着型サービスとしての本旨に、真摯に向き合おうとしている。今後も、家族や地域との連携を活かし、個別支援の追求や、地域拠点としての活動展開が大いに期待される事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	永く地域で暮らしてきた、利用者の生活が途切れることなく、「普通」に継続できるようまた。個々の「こうありたい」という思いにこたえられる環境を福祉力、介護力で作り出すことを経営理念に掲げるとともに、ホーム完結型ではなく、地域と連携することを基本理念に掲げている、年間行事を企画する段階でさまざまな取り組みを検討している。	地域密着型サービスとしての意義を踏まえた独自の理念が、開設時に作成されている。職員の意見を集約しながら、管理者により作成されたものである。毎月のスタッフ会議や、研修項目としても取り上げていく予定としており、理念の浸透を図り、実践につなげるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会、幼稚園、小学校、学童・・・などなど、多くの交流の機会を持っている。	町内会に加入している。町内の会合の際には場所を提供したり、ミニ介護教室も開催されている。近隣の幼稚園との交流も継続しており、運動会ではテント内に席も用意され、玉入れ等の競技にも参加している。シルバー文化祭には、入居者の手による、刺し子や編み物、習字等の作品が出品され、地域の方との旧交を温める機会にもなっている。学童クラブの子供たちが年賀状を持って新年の挨拶に訪れている。地域とつながりながら暮らし続けられるよう、積極的なアプローチが行われていることが確認できる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の会議の開催を、ホームで開催したり、グループホームを理解していただくための見学会や、認知症の理解の勉強会をホームで行うなど、開かれた環境づくりをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとに開催し、ホームでの事故やヒヤリハットの報告、利用者の状況などの報告を行っている。家族会代表、地域の代表、地域包括支援センター代表などに参加頂き、意見交換をしている。	入居者、家族会代表、町内会長、錦町まちづくり協議会会長（公民館長）、地域包括支援センター職員の参加により、2ヶ月に1回、定期開催されている。ホームからは、運営状況やヒヤリハット、日常の様子について報告を行い、意見交換を行っている。また、地域より行事等の情報提供を受け、参加につながることもある。災害対策についても話し合いが行われ、	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への地域包括支援センター職員の参加を頂き直近の問題点などを相談している。また、監査指導課による実地検査を通して、より適切な運営ができるように指導していただき書類の変更など行った。	運営推進会議には、地域包括支援センター職員の出席を得ており、情報共有や意見交換を行っている。グループホーム協議会主催の交流会や、地域包括支援センター主催の情報交換会への参加を通じて、交流や意見交換を行っている。	

福岡県 グループホーム かいせい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各ユニットのエレベーターや階段は、安全の面から施錠している。また、年間研修計画において必須研修とし行い周知している。	身体拘束廃止セミナーやリスクマネジメントに関する内外の研修機会を確保し、職員の共有認識を図っている。現状としては、エレベーターや階段の使用には制限が設けられている。家族会の中でも、説明や意見交換を行い、ケアのあり方について検討を行っている。今後も継続して話し合いを行う予定としている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定例会議や研修において虐待防止について理解を深めている。また、日々の業務の中での言葉かけ等においても、その可能性は無いが、スタッフ間で研鑽している。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の機会を設け、制度理解を深めている。資料やパンフレットなども備え付けており、いつでも活用できるよう努めている。	権利擁護に関するセミナーに参加し、内部での伝達を図っている。現在、成年後見制度や日常生活自立支援事業を活用している方はいないが、資料を整備し、家族会の中でも配布や説明を行う等、積極的に情報提供を行っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時、パンフレット、重要事項説明書、契約書などを利用し、丁寧な説明を心掛けている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・相談受け付け表を作成し、職員全員に回覧し、苦情などを共有し、同じような苦情が上がらないような工夫している。定期的に行われる家族会においても、どのような苦情があり、どのように対応したか、どうすれば苦情にならなかった等を確認する。	年2回、家族会を開催しており、参加率も高い。事故報告や苦情内容について報告を行い、情報共有や意見交換を行っている。また、アンケート調査を実施し、結果についても家族との共有を図っている。積極的に意見や要望の収集に努めながら、職員への周知や検討を行い、運営への反映に努めている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、年2回、面接を行い、その年度の本人の目標の確認、どうすれば現実になるのか、また、組織に対しての要望などを把握するようにしている。	全体会議やユニット会議を通じて、職員の意見や提案を収集している。実際に、書式の整備等に職員意見が反映されている。不参加の職員には議事録を配布し、周知を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、シフト表作成時、各スタッフの勤務に偏りが無いが、計画作成担当者で確認をしている。また、レクリエーション担当となり準備のために時間外勤務が発生したりした時は、申し出により手当を付与するなど、業務に意欲がわくように工夫している。		

福岡県 グループホーム かいせい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	男女の差別や年齢の差別もなく雇用している。休日の確保、休憩時間の確保も確実にしている。休日の希望も、できるだけ取り入れられるように配慮し、働きやすい環境を確保している。	職員の採用にあたっては、年齢や性別による排除は行っていない。希望休の取得に向けた配慮や、休憩時間の確保に取り組み、働きやすい職場環境作りに努めている。また、研修参加費用のサポートや資格取得に向けた支援も行われている。年2回、個人面談を行い、目標設定や評価を行っている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	高齢者虐待マニュアル、身体拘束マニュアル、接遇マニュアルを作成し、社内研修等を行い、自身の言動を振り返る機会を作るようにしている。	権利擁護セミナーやメンタルヘルスに関する研修に参加している。また、内部研修でも、様々な視点から、人権教育、啓発に取り組んでいる。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年2回、面談を行い、各自の目標の設定、そのために何をするかなどを、個別に話し合っている。職員の不足や県の事業（介護職員技能向上支援事業）の中止により、社外研修を受けにくい状況ではある。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に入り、研修などを通して、同業者との情報交換に努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、面接を行い、アセスメントを行い個別の課題や不安を把握できるように努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接時に、家族の意向、不安に思っている事等を聞き取り、グループホームに何を期待しているのかなどの聞き取りを行っている。家族会を設置し、常に情報交換ができる関係づくりに取り組んでいる。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族から聞き取りを基にアセスメントを行い、グループホームでのサービスを含め、その他必要なサービスが受けられるよう計画書作成をし、各スタッフと共有している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	アセスメントを通し、できる事出来ない事を把握。生活の中で、本人ができる事を見つけしていただく。「役に立っている」という実感を持っていただけるよう工夫している。		

福岡県 グループホーム かいせい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームの状況を知って頂く為に、毎月広報誌を送っている。家族会を年2回開催し、その都度必要な議事を協議したり、事故報告を行うなどしてホームにおける現状を理解していただくように努めている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	場所がら、交通の便も良く、家族だけでなく友人知人の訪問も多い。お寺参りや、理美容院の利用など、なじみの関係を継続している。	馴染みの美容院やスーパーの利用、月命日のお寺参りを継続できるよう支援を行っている。また、指定の新聞の継続購読している方もいる。毎週、近隣に住むお孫さんが訪れ、夕食の時間をともに過ごしている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや行事を通じてお互いに関わりをもてるよう支援している。認知症という病気にてお互いを気遣う事が苦手となり、利用者間トラブルが発生する事もある。その場合の調整方法を各スタッフで共有できるようにして置く。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなった利用者の家族が、文化祭に訪問してくださったり、他の利用者訪ねてきてくださったり、と交流が続いている。習字指導はなくなった利用者の家族が継続して下さっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の何気ない言葉を聞きもらず、その思いに対応できるよう心がけている。又自ら発信しない方についても、働きかけを心掛けている。	日常の中の言葉や表情等から、思いや意向の把握に努めている。家族からの情報も収集しながら、本人本位の検討を行っている。個人記録からは、日々の様子や心身の変化が伝わりにくい印象を受ける。職員個々は情報を把握していることから、共有に向けた取り組みが期待されます。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメント時に、本人らしい生活が送れるよう支援している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の健康面精神面、ADLなど日々の生活ぶりを記録した情報を職員間で共有している。		

福岡県 グループホーム かいせい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の状況の変化時や、介護保険更新時、その他必要時、サービス担当者会議を行い、適切な介護計画を作成し、実践している。	本人、家族の参加する担当者会議を開催している。個別の日課や役割についても盛り込まれており、暮らしの活性化に向けて働きかけを行っている。日々の計画実施表や毎月のモニタリング、カンファレンス等を通じて、現状の確認と見直しの必要性について検討を行っている。	アセスメント情報としては、生活史やライフスタイル、馴染みの関係性や拘り等、これまでの「暮らし」や「思い」に関する情報は少ない。職員個々は把握しているようであり、情報の集約や検討、視点の確保も含め、様式の充実や認知症ケアへの反映が期待されます。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子や気付き等を記録し、職員間で情報を共有し、必要時にカンファレンスを行い介護計画書に反映させ実践している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	年間行事としてのレクレーションの企画、個別外出実施、集団外出レクの企画実施、随時行うドライブレク、お誕生日外食など柔軟に対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	昨年と同様、町内会の運動会、金利幼稚園との交流、小学校、学童との交流など積極的に取り組んでいる。また、理美容も「訪問」という形ではなく、近隣の、なじみの理美容店へ行くことで地域の一人としての暮らしを支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の往診を中心ではあるが、入居前に受診していた医療機関を希望であれば、受診がスムーズに行えるよう、家族と連携を取っている。家族が対応が困難などkりが受診同行を行うなどし必要な医療が受けられるよう支援している。	入居契約時に、かかりつけ医について確認を行っている。これまでのかかりつけ医への受診については、基本的に家族との連携を図っている。また、複数の協力医療機関との連携を図り、定期の往診も行われており、適切な医療を受けられるように支援している。看護計画、及び看護記録が整備されており、日常の様子や状態がわかりやすい。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は、隔日勤務ではあるが必要な情報は、日誌、看護師絵の連絡ノート、各利用者の記録などで適切に行われるようにしている。職員は、看護師が作成した看護計画書を理解し、それに配慮したケアを行っている。医療機関には看護師による提示、緊急時の報告がなされている		

福岡県 グループホーム かいせい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、病棟関係者や家族との連携を密にしている。又、面会に行くなどし利用者の状況を把握し退院時に備え支援している。家族が遠方在住の時は、家族に代わり必要な支援をしている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に看取り、終末期の対応の説明を行い本人、家族の希望を確認している。又、必要時には医師、看護師を交え終末期の対応をしている。	重度化対応・終末期ケア対応方針や看取りに関する指針をもとに、入居時の説明と意向確認を行い、同意を得ている。家族会の中でも、説明や意見交換が行われており、方針の共有に努めている。状態の変化に伴い、その都度、家族や医師との話し合いを重ね、方針を共有している。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急時の対応のマニュアルを作成して職員への周知を図るとともに、消防署救命士による研修に参加している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルを作成し、職員への周知を図ると共に、消防署の協力のもと自治会長、町内協力者の参加した通報、避難訓練を行っている。夜間を想定した訓練もお行っている。ライフラインが止まることを想定し、非常食、水、カセットコンロ、カセットボンベ、非常用トイレなどを準備している。	年2回、消防署の立会いも含む、昼夜を想定した避難訓練を実施している。自動火災通報装置の連絡先として、自治会長や近隣住民の協力を得ている。運営推進会議や町内の会合でも話し合わせ、地域との協力体制作りに取り組んでいる。飲料水や食料は5日分備蓄され、ライフラインの遮断を想定した備品も充実している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇マニュアルの職員への周知を図るとともに、実際に起きた苦情などを回覧し、会議にかけるなどして共有し利用者の人権やプライバシーに配慮した支援を心掛けている。	マニュアルの周知や研修計画の中に位置付ける等、尊厳やプライバシーの確保に向けて、職員の意識を高める取り組みが行われている。排泄ケアや入浴時の対応については特に留意し、プライドや羞恥心への配慮を心掛けている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	サービスの開始時に声かけをしている。レクリエーションなどについては、その都度参加、不参加の意向を確認し、自己決定できるようにしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活パターンをはあくし、個々のペースに合わせたケアを実践したり、心身の状況に応じた対応をするように努めている。		

福岡県 グループホーム かいせい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時、何が着たいのか本人に確認し好みや季節に合わせた御洒落ができるようにしている。いつも清潔なものを身につけられるよう洗濯をしている。又、衣類のほつれや、ボタンが取れたものが内科など、気付けばすぐに対応するようにしている。理美容に関しても随時対応している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に応じてお盆拭きや配膳など準備を手伝ってもらっている。お米は大分県宇佐の山奥の農家から購入し、おいしいお米を提供している。食事前に口腔体操を行い、嚥下機能の低下予防に努めている。利用者に合わせて食事形態で提供するようにしている。	大分県産のお米を取り寄せている。主菜等は栄養バランス等に配慮された半調理品を用い、嗜好や既往歴等への柔軟な対応が行われている。行事食やおやつ作り、また誕生日には個別の夕食に出かける等、「食」を楽しむ機会を確保している。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	給食サービスを利用しバランスの良い食事を提供している。摂取量を記録したり、体重測定を月2回行い、増減に気をつけている。必要時にはかかりつけ医に相談し栄養状態に配慮している。水分量にも記録を取り、必要な水分が取れるよう工夫している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの誘導や実施を行っている。義歯の洗浄保管、ケア用品の保管などにも配慮している。利用者の状況に合わせた口腔ケアを行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行い、排泄パターンを把握しトイレで排泄できるよう必要な排泄誘導や介助を行っている。	排泄チェック表を作成し、個別の状況やパターンの把握に努めている。カンファレンス等にて個別の検討を行い、トイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている。表情や行動等から個別のサインを見逃さないようにし、職員間で共有を図っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて、排便の有無。形状、量の把握の確認を通し、水分補給、運動を促すようにしている。間隔が開いているようであれば看護師に連絡し、かかりつけ医に連絡するなどして対応している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個別のチェック表にて、定期的に、平等に入浴できるように工夫している。又、安全に入浴できるよう配慮することはもちろん、不定期の希望時、不潔時にも入浴、シャワー浴ができるよう二いっている。	週3回の入浴スケジュールは設定しているが、毎日入浴準備を行っており、希望や状況への柔軟な対応が可能である。菖蒲湯や柚子湯など、季節感ある演出も行われている。	

福岡県 グループホーム かいせい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室やホールのソファにて休息できるように支援するとともに、湿度や彩光等に配慮し、室内環境を戸と得ている。シーツなどの寝具、パジャマなど定期的に先約するなど、清潔に配慮している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師による管理のもと、服薬チェック表を利用して服薬の漏れやご誤がないように注意している。途中で、薬の内容が変わったときは、申し送りなどで、周知している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者のしたい事出来る事に取り組めるように、している。本人のADLや能力に合わせて掃除、洗濯、洗濯ものをたたむ、お盆を拭くなど、生活の中で出来る事を行っていただいている。また、趣味に応じた個別の取り組みも行っている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出レクを、年間計画に入れ、実現に向けて、担当が具体的な企画をしている。また、予定にないが、お天気や本人の希望などで、ドライブに行ったり、気分転換を図っている。平等に外出の機会を作るため、外出確認票で記録している。	外出確認表を作成し、外出の機会の拡大に取り組んでいる。個別のアクティビティとしての外出も計画されているところである。希望や状況、季候等により、臨機応変に対応している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常的なものはホームで管理しているが、受診時に、薬局で嗜好品を購入したり、ホームで使うものを一緒にお買い物に行ってもらい、支払いをってもらうなどし、お金の触れる機会を作っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人宛のでんわは取りつく、またはかけなおすなどして支援している。家族に電話御かけたいおという希望があれば、一緒にダイヤルするなどしている。手紙に関しては、本人に渡し、希望があれば一緒に書いている。行政からの文書は本人の了解のもと、ご家族へ渡している。		

福岡県 グループホーム かいせい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1階フロアーの壁には、利用者が習字の時間にかいた習字を展示し、来館する皆さんに観て頂けるようにしている。又、各フロアーに廊下には、利用者作成した、季節感のある作品を展示している。教養の空間は、毎日清掃を行ったいる。空気清浄機や加湿器などを設置し、衛生環境を行っている。	1階には事務室兼多目的ホール、2、3階に2ユニットが位置している。屋上にはトイレも設けられ、菜園スペースとして、また、イベントスペースとしても活用出来るため、テーブルを並べ、海峡花火を眺めながら、夏祭りも開催されている。洗面台のタイルや窓に施された木製ブラインド、各種照明やスタンドグラスの設置等、随所に潤いある生活環境作りへの工夫と配慮が見られる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーにおいて、ある程度の決まりができてい。「いつもの席」で、楽しく食事ができた入り、会話ができたり、作業ができるなど、利用者の様子に配慮しながら支援している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が自宅で利用していたなじみのものを、持ち込んでいただいたり、レクリエーションで作成した、フラワーアレンジメントを飾るなど、居心地良く過ごせるように支援している。掃除も業務内容に位置付け、清潔に過ごせるよう、室温、湿度彩光を調整している。ナースコールを設置し、いつでも対応できるようにしている。	各居室の入口は、それぞれ趣向の異なるスタンドグラスが飾られている。筆筒や椅子等の使い慣れた家具が持ち込まれ、仏壇を置いている方、手作り作品を飾る方等、安心して、居心地良く過ごせるよう配慮されている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前には自分の部屋だと分かるように、また、利用者それぞれのスタンドグラスを飾り、視覚的にも自室と分かるように工夫している。ホーム内はバリアフリーで、必要などこには手すりを設置し安全に生活できるように工夫している。		